

多様な学び 国の支援に期待感

越谷「りんごの木」活動実る 法案が今国会で審議

不登校の子どもたちが通うフリースクールや自宅学習も義務教育と見なすという、超党派の議員立法による「多様な教育機会確保法(仮称)」が今国会で成立の見通しとなっている。今月、創立25周年を迎える、越谷市のフ

リースクール「りんごの木」関係者は、長年の国などへの運動がようやく実を結び、と喜ぶと共に、「今後、財政支援を含めた『多様な学び』がどこまで実現するか、見守っていききたい」と法案成立と制度化の行方を注視している。

「個別学習」修了認める

多様な教育機会確保法案(仮称)「年齢や国籍に関わらず、義務教育を受ける機会を与えられるようにする」を基本理

念として、保護者がフリースクールや自宅を何をどう学ぶかを「個別学習計画」にまとめ、これを市町村教委が認定すれば、子どもの就学義務を履行したとみなす。修了すれば小中学校卒業と同程度と認める仕組みを想定する。フリースクールの授業料は月額数万円かかるため、あきらめる親子も少なくない。このため、法案は国や自治体に必要な財政措置を求めている。

「フリースクール」なども義務教育に

越谷市の認定NPO法人「越谷SOS」(増田良枝理事長)が運営するフリースクール「りんごの木」は1988年12月、同市千間台西の学習塾「遊学舎」有志が不登校の子どもたちへの学習支援活動を始めたことがきっかけで、1990年6月に誕生した。当初は、「フリースペース・りんごの木」と名付けた。1992年に「親の会」を中心に「越谷らるる」を設立して、「不登校」の問題などを国や県、市などに訴えてきた。2001年にNPO法人化され、「り



「りんごの木」でスタッフと一緒に調理実習を楽しむ通学者たち(越谷市千間台東で)

校の子どもへの社会のまなざしはとて厳しかった。不登校は本人か親の責任、または病気とされ、変化に対応しない学校のあり方に対応し、目を向ける人は少数でした」と話し、「それでも、年々、りんごの木は社会に受け入れられ、多くの人たちに支えられ、ずっと続いている」と振り返る。

「NPO法人フリースクール全国ネットワーク」の理事でもある増田理事長は、5年前から、超党派の国会議員とともに、「子どもの多様な学びの機会を保障する法案を実現する会」を立ち上げて、実現に向けて活動してきた。「まずは多様な教育を確保するための

「根拠法」を今国会で成立し、次年度、経済的な支援に具体的に踏み込む予定」(増田理事長)という。

「りんごの木」には現在、小学校1年生から、23歳までの50人が通う。通信制高校2年生の男子(16)は、小学2年の時から通っている。「いつも学校に戻らなくてはどういう思いが消えなかった。でも戻れなかった。りんごの木で勉強を続け、今は通信制に通いながら、りんごの木へも毎日通っています」と話す。

この法律の実現で、増田理事長は「学校に行けない『だめな自分』から、国が認める『多様な学び』の場で育つ自分」に変化していく

のではないかと思う」と話し、「法案の具体的な内容は、現行法との整合性もあるということなので、財政支援を含めた多様な学びが、どこまで実現するのか、見守っていききたい」としている。

んごの木」もフリースクールと名前を変えた。

設立者の一人の増田理事長(65)は「25年前、不登